

布野小3・4年

令和5年度 総合的な学習の時間のまとめ

【单元名】来てみて布野！～伝えたい！布野の自まんを長江小に！～

1. 探究のスパイラル

課題の発見

phase① 現実の文脈に沿った課題を発見・設定する。

- ・2年生の時、町たんけんへ行って、布野にはたくさん自慢があることを知ったよね！
- ・『3年生のアスパラを育てること』、『4年生の長江小との交流会をすること』の伝統は引き継ぎたい！」「でも今のままで布野に来たいと思ってくれるのかな？」
だったら！！ ↓
『布野に来てもらって、喜んでもらって、また来たい！と思える布野にしよう！
～長江小に伝えよう～』

phase② 成果の発表について事前に詳しく示される。

- (日時・相手) 令和5年11月 尾道市立長江小学校(4年生)
(場所・方法) 尾道市立長江小学校 長江小学校4年生に、布野の良さを伝えて、布野に行きたいと思ってもらえるプレゼンをする。
(条件) ・長江小の人が、布野に「行きたい！」「楽しい！」「また来たい！」と思ってもらえるような、プレゼン内容にすること。
・布野のよさが一目で伝わり、「行きたい！」と思ってもらえるキャッチコピーを考えること。
(準備に使える授業時間) 45時間

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく。

- ① 布野の誇れること、自慢したい場所やものを調べたり、現地調査を行ったりし、情報を収集する。
- ② 紹介したい場所やものが、長江小の人にとって本当に「行きたい！」「楽しい！」等と思ってもらえるものなのか検討する。
- ③ 検討したものが実現可能かどうか、校長先生や地域の方(道の駅、プー太郎等)へ確認・提案する。
- ④ 校長先生、地域の方からいただいた意見を参考に、どんな内容をどのように紹介すればよいか考える。(地域の方に作成したリーフレットを置かせてもらったり、スタンプラリーができないかお願いしたりする。)
- ⑤ 長江小の人が「布野に行きたい！食べてみたい！」と思えるプレゼンを作成する。
- ⑥ 布野へ来ての感想を聞くためのアンケート方法を考え、作成する。
- ⑦ 携わっていただいた地域の方や5年生にプレゼン内容を聞いてもらい、いただいた情報を基にプレゼンを修正する。
- ⑧ 布野のよさが一目で伝わり、「行きたい！」「楽しい！」「また来たい！」と思ってもらえるキャッチコピーを考える。(キャッチコピーは、交流会が終わって校長先生に提案したり、道の駅で飾ってもらえないか提案したりする。)

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

- ・長江小学校との交流会で布野の紹介をする。
- ・活動の一連を振り返り、どんな力がついたかを考え振り返る(作文を書く)ことを通して、自分の成長を実感する。その成長ぶりを、2分の1成人式で披露できないか考え、次の探究に繋げる。

成果の発表

探究の過程を何度も繰り返す

2. 実際の活動の流れ

【phase①】

どんな学習にしていくか話し合った結果、伝統を引き継ぐことになった。そこで、「長江小の人にぜひ『行きたい』『楽しい』『また来たい』と思ってもらえる布野にしよう!」というゴールを決めた。

ゴール達成のために話し合った結果、「アスパラグループ」「中村憲吉グループ」「公園作りグループ」に別れ、それぞれが計画を立てた。

【phase③】

「アスパラグループ」は、アスパラ料理を、お好み焼きプー太郎、道の駅ゆめランド布野（以下、道の駅）に出してもらえないか提案した。道の駅からは、アスパラ農家さんと話し合い、持続可能なメニューになるよう考えてほしいと意見をいただいた。

「中村憲吉グループ」は、憲吉記念館を訪問し、長江小に伝えたいことをクイズにした。その後、道の駅支配人さんに、自分たちが考えた「憲吉アイス」を販売してもらえないか提案した。

「公園づくりグループ」は、布野に公園を作ろうと考え、校長先生にプレゼンしたが、資金面から却下された。その後、「ひろめちゃん」と改名し、フルーツランドふのを訪れ、生産者やお客さんにインタビューしたことをクイズにまとめた。3グループがまとめたことは、長江小 zoom 交流会で発表した。

その後、多くの方に布野に来てもらうために、実際にフルーツランドふの、道の駅へ出向き、動画撮影、編集を行った。考えたキャッチコピーは、動画と QR コードと共に、パンフレットに載せた。

【phase④】

長江小との交流会後、パンフレットを道の駅支配人さんに見ていただいた。その後、支配人さんが県内の商談会で広めていただいたお陰で、ある旅行会社さんが企画するツアーが決まった。今後は、道の駅に来られたお客さんに、どうサービスを行うか、また来たいと思ってもらえるかを考えていく。

連携した関係機関

- ・道の駅ゆめランド布野 升井支配人
- ・プー太郎（お好み焼き屋）
- ・フルーツランドふの 戸田さん

3. 活動の様子

布野に来てもらいたいよね!



phase①

話し合い、ゴールを決定

プレゼンしたら修正の時間もあるよね!



phase②

カレンダーを見ながら見通しをもって計画

どう撮ったらおいしそうに見えるかな?



phase③

実際に BBQ をしながら動画撮影



phase④

完成したパンフレット

4. 成果と課題

○果たしたいゴールが明確であったことと、軌道修正しながら子どもたちで探究を進めていったことにより、途中の困難な課題にも意欲的に取り組むことができた。また、総合の授業が楽しいと思う児童がアンケートにより、100%であった。

○地域の方の協力がなければ、ここまで子どもたちの探究は進んでいなかったと感じる。積極的に地域へ出向き、協力していただいたことで、より、本質的な問いに迫ることができた。

●単元内容が大きくなるにつれて、地域との連携も大変になってくるため、指導者はその都度計画を立てながら見通しをもって地域との連携を行う必要がある。